

勿凝学問 150

社会保障国民会議における社会保障財政シミュレーションについて

2008年5月10日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

今日、5月10日——10年ほど前にケンブリッジにいた頃の、10歳くらい年下の友達の結婚パーティのために雨の中を西麻布に出かけた。[勿凝学問 129](#)で触れているように、「当時の学生は立派な研究者に、当時の若手官僚・裁判官は今や中枢の仕事を担当していたり、なかには政治家になっていた」と、会えば10年の月日を忘れて、会話が盛り上がる。

今日出席していた中にも、いろいろな省庁の中堅どころの官僚がいて、最近どうですかと訊かれた僕は、次のような話をする。

「おいおい、霞ヶ関とか永田町ってのはおもしろいところだなあ。僕は日頃、外界とはあまり関係のない職人のような仕事をしながらのんびりとすごしているんだけど、皇居を取り囲んだ界限は、戦時中の情報戦のようなことをやってるねえ。

社会保障国民会議で、年金の租税方式化や、あるべき医療・介護を想定した社会保障財政のシミュレーションをやりましょうと提案していて、それが再来週5月19日月曜日に開催される雇用・年金分科会で報告されることになっているんだけど、どうも、そのシミュレーションを発表してほしくない人たちもいるみたいで、いろいろと不穏な動きがありますよという情報が、メディア関係の友達とかから入ってくるよ。

それに省庁も、いろいろと立場が違うようで、連携したり対立したりして遊んでいるみたいだな。なかには基礎年金の租税方式化を強く支持していて、省内に年金の租税方式化担当の人が5、6人いる省とかもあるらしい。そしてどこからか、租税方式を主張している団体とか報道機関に、租税方式はあり得ないだろうという人たちの情報や僕らも知らないシミュレーションに関する情報が伝えられたりしているんだって。本当かなあ。でも、時々、不穏な動きがありますよ・・・という情報がメディア関係の友達から来るのは結構おもしろい（笑）。

こうした怪情報が正しいのかどうかは、再来週の国民会議分科会の前に、租税方式を支持する報道機関が、国民会議でやっているシミュレーションを否定的に報道して、“やっぱり自分たちの年金改革案が一番！”という我田引水記事を出すかどうか

かで分かるんだろうけど、にわかには信じ難い話だよなあ。新聞という社会の公器を使って、本当にそこまでやるのか!? もしやったら、社会の公器としての信頼は失墜すると思うんだけどねえ。

どう思う? シミュレーションの公式発表以前に、租税方式を支持している新聞が我田引水記事を載せるというリスクをとると思う? うんっ、そんなのリスクだと思ってる人はいない?

その時、誰が情報をリークするんだろうねえ?

僕も先日シミュレーションの途中経過を見たけど、未定稿と書いてあったから、その場において帰ってきた——そういうのを持ち歩く趣味はなくなって (笑)。

それにしても、みんなが働いている永田町、霞ヶ関界限は、僕らの退屈な日々と違ってなんだか楽しそうだよなあ。。羨ましいよ (笑)」

さてさて、このシミュレーションについては、僕が3月4日の雇用年金分科会に提出した次の資料をご参照あれ。

✓ [基礎年金租税財源化に関する定量的なシミュレーションの必要性](#)

なぜ僕が、こういう提案をしたのかについては、次の2つの文章をどうぞ。

勿凝学問 41 [肥満訴訟よりは勝ち目があると思う年金未納推奨訴訟——および9.11総選挙その後と厚生・共済年金一元化](#)

2005年10月29日脱稿

2005年9月11日総選挙当日、わたくしは、イギリスへの機中であつた。選挙の結果を知ったのは、ケンブリッジに到着した夜、日本時間では12日朝であつた。

その後、「新政権に求めるものは何か」、「今度の選挙で年金には決着がついたと考えてよいのか」との問い合わせメールが届いたので、次のような返事を出した。

新政権に求めるものは何か?

<2005年9月13日送信>

...

余談は続きます・・・

それから、わたくしが、新政権に求めたいことは、他にもありますし、こちらの方が重要とも考えています。

先日も書きましたように、わたくしが今、年金に対して最も大切と考えていることは、次の選挙で、年金を政争の具とした政党が得票率を落とす政治環境をつくることです。

そのために、各省庁のマンパワーをフル活用して、各政党がマニフェストに描いた年金案に肉付けしてあげ、具体的年金案を作りあげる。次に、両院合同会議でそれら年金案の技術的・政治的実行可能性を、公開のもとで広く議論し、どの政党が、毛針で無知な有権者を釣るに似た卑怯な選挙戦略、すなわち実現可能性のない年金案で有権者を騙そうとしたのかを明らかにする。そこで明らかにされた情報を、ひろく有権者に届くように限りなく努め、これからもこの一連の作業を繰り返し行うという姿勢を、野党に知らしめる。そうすれば、次の選挙から、年金を政争の具とすることに、各政党は慎重になるはずですし、与党が勝手に野党の年金案を肉付けして、その実現可能性の低さを公開のもとに議論すれば、野党も、両院合同会議の外にいられなくなる効果も見込める。

面倒ですが、これは民主主義を運営するためのコストです。このコストを負担しておかないと、次の選挙で、野党が、また同じように年金で仕掛けてくる可能性は多分にあり、そこでなされる不毛な政争のなかで、年金への誤解や過剰な不信感が国民に植え付けられることのほうが、はるかに大きなコストを求めることになると思えます。年金が政争の具とされると、災難なのは国民。このことは分かっておいてください。

勿凝学問 98 [民主主義運営コストと研究者の政策批判コスト](#)

2007年7月19日脱稿

なぜ、2005年の郵政選挙で与党が大勝した後に、民主党の年金改革案に肉付けをしてあげて、多くの人が民主党の年金改革案に期待していることは民主党の年金改革案では実現できないことを証明するという、「民主主義運営のコスト」を政府は負担しなかったのか。それさえやっておけば、最近、テレビで放映されていたように、民主党幹事長を中心とした若手議員が居酒屋で、「うん、年金で行けるよ、年金で行こう」と軽いのりで話していた彼らは、この参院選で制度論にまで及んだ年金選挙を仕掛けるようなことはできなかったはずである。そして国民の年金不信感が、今回の選挙を機に増幅されるというようなことも最小限に抑えることができたはずである。

もっとも、2005年に開かれた（年金を論じるための）両院合同会議で、民主党の年金改革案は与党委員から激しく攻撃され、民主党年金改革案の問題点は露呈してはいたらしい。ところが、よもや議事録にも残る会議であったからではなかろうが、民主党は嫌気がさしたのか会議への出席をぐずっていた。そのうちに郵政解散となって、両院合同会議での与野党の年金論議はうやむやになったということである。9.11 郵政選挙では、民主党は凝りもせずに年金選挙を提唱して大敗したわけだが、鈴木哲夫氏の『政党が操る選挙報道』には、あの時でさえ、2004年来の国民の間での年金不信と民主党による旺盛なキャンペーンのおかげで、国民の民主党年金改革案への期待が郵政問題に肉薄するところまで行っていたことが書かれている。しかしながら、民主党は大敗した。選挙戦の最中に、与党は民主

党の年金改革案を徹底的に攻撃したようであるし、なによりも、小泉旋風は圧倒的な勢いであった。

問題は、そこからである。選挙に大勝した政府与党は、それでも民主党の年金改革案をしっかりと精査すべきだったのである。わたくしは、先に紹介した民主主義の運営コストを負担すべしという「[勿凝学問 41](#)」を、この時点で書いている。しかしながら、彼ら政府与党は、何もやらなかった。というよりも、今日、まともな政策論議を妨げている諸悪の根源たる「民主党の年金改革案」は、逃げ切って生き延びた。それが今の状況を作っている。

ところで最近、参院選を控えた年金ブームのなか、再び年金批判ブームが起こっている。これまでのわたくしの論から予測できるように、わたくしは、建設的な年金論議の土壌を作るためには、これら年金批判を精査する必要があると思っている。どこがやるべきか？それは、もちろん政府であろう。

社会政策学会第 115 回大会 (2007 年 10 月 14 日 於 龍谷大学)

共通論題『社会保障改革の政治経済学』

「[年金騒動の政治経済学——政争の具としての年金論争トピックと真の改善を待つ年金問題点との乖離](#)」 38 頁

最後に、ひとこと。

本稿で紹介した民主党の年金改革案の具体像は、「年金制度をはじめとする社会保障制度に関する両院合同会議録議事情報一覧」をみることによってはじめて知ることが多かった。逆に言えば、こうした「両院合同会議」がなければ、(未だ分からないことが多々あるとは言え) 民主党の年金改革案についてなんらかを語るための材料はほとんど入手できなかった。この点、「[勿凝学問 32 年金改革と民主主義](#)」(2005 年 4 月 2 日脱稿) [権丈(2006), pp.391-4] の中で、当時、設置の準備が進められていた「両院合同会議」はつまらないものになると想像していたが、議事録を残す会議の意義は、わたくしが想像していた以上に大きかった。

ところで、「年金制度をはじめとする社会保障制度に関する両院合同会議」の意義については、第 4 回会議における次の発言が的を射ていると思うし、わたくしの言う「民主主義の運営コスト——選挙の後に各党マニフェストの実行可能性を検証するコスト」という考え方に符合する。

伊吹文明議員 (自民党) 於 2005 年 6 月 6 日 第 4 回「両院合同会議」

マニフェストというのは私は一つの方式としていいと思うけれども、多数をとって政権をとると、マニフェストの実現可能性というのが問われます。確実に問われます。しかし、政権をとれなかった者の提案したマニフェストのフィージビリティ

というのはどうなんだという検証はないんですよ。ですからこそ、こういう話し合いの場というのがあるというふうに私は考えるべきだと思います。

今日の政局の混乱は、マニフェスト選挙がまがりなりにも定着しつつあるのに野党のマニフェストを検証する制度の中に野党が参加するインセンティブが、どこにも組み込まれていないことから生まれているのではないかと考えている。政党交付金の給付などとリンクできないものか……。

当面、それが無理でも、本稿の読者が、ここに登場してきた政治家の言葉から彼らの適正を判断し次の選挙での投票先を決めてくれるのであれば、会員でもない社会政策学会からの依頼でみずから「民主主義の運営コスト」と化し、遊び時間を費やしてこの論文を書かされたわたくしとしては、それなりに本望である。

今や、政府が協力して、提案された年金改革案のシミュレーションをしてあげる必要があるのは民主党の改革案だけではない。その後、いつもいくつも提案されている。彼らの中には、役所がデータを出さないから具体的なことについては論じられないという者もいる。本当か？ これまでも、年金の財政再計算で使ったデータとプログラムは、求められれば提出しているはず。

「僕が権力を持つってことはこういうことだよ（笑）」と言って、社会保障国民会議のメンバーになったらすぐに、僕は、年金の租税方式化や、あるべき医療・介護を想定した社会保障財政のシミュレーションを頼んだ。

シミュレーションに携わってくれる人たちに、「霞ヶ関が連携し、研究者も連携したオープンジャパンでやろう。オープンアーキテクチャーでやろう。大変だろうけど、誰もが自由に政策提言しても良い民主主義ってのは、誰かがこういうコストを負担しないといけないんですよ。民主主義の運営コストと思って諦めてください（笑）」と伝え、省庁横断的、そしてシミュレーションに強い社会保障の研究者の協力も得ながら行われているシミュレーション¹が——リークされることもなく横やりを入れられることもなければ——再来週の5月19日月曜日15時から開催される社会保障国民会議雇用年金分科会の場で公開される。

2008年5月15日

追記

¹ 現在進められている作業は、第3回雇用年金分科会で承認された次のペーパーに基づいて進められている。

✓ [社会保障国民会議における検討に資するために行う公的年金制度に関する定量的なシミュレーションについて](#)

複数の知人より、今日の夕方、連絡が来る。そのひとつを・・・。

すでにお聞きになっているかもしれませんが、あす金曜日16時から
来週月曜日に国民会議の分科会で出すシミュレーションについて
マスコミを対象にした事前ブリーフがあります。
そして、月曜の会議終了後解禁となりました。

誰が決めたか知らないけど、まあ、妥当な判断。

昨日5月14日に発表された経団連年金改革案を持ち上げた我田引水記事を書く新聞はあるだろう。

では、みんな、正しい報道をよろしく頼む。